

## 赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」

### 第1回助成決定に当たって

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の第1回目の助成先を決める第2回配分委員会を開催しました。以下に、助成先の選考にあたっての考え方などについて講評いたします。

はじめに、「支える人を支える募金」であるサポート募金にご寄付くださった皆さまに感謝申し上げます。現在、この募金だけで19億円を超える寄付をいただいております。被災地などで支援活動を行っている活動団体の皆さまにとっても活動の励みとなっていることと考えます。

配分委員会では、寄付者の皆さまが、被災地等における救援・支援活動を積極的に支援することを希望されていると受けとめ、選考に当たりました。

#### 1. 第1回応募状況と助成決定状況

さて、4月14日から公募を始めた第1回目の応募状況は、短期間にも関わらず、1か月未満の「短期活動」部門では、23件・767万円の応募、1か月以上の「中長期活動」部門では、102件・2億4829万円の応募がありました。

選考の結果、このうち、「短期活動」部門では、22件・466万円。「中長期活動」部門では、80件・1億9676万円の助成を決定しました（合計：102件・2億142万円）。

第1回のお応募ということもあり、活動内容は緊急救援の活動が多く見受けられました。その中にもあっても、各団体がそれぞれの特色を生かし多様な活動を展開されたことがわかりました。今後は、命を支える緊急救援の活動から、徐々に生活支援活動が増えてくるであろうと予想しています。

#### 2. 選考にあたっての考え方

##### (1) 選考にあたっての考え方

第1回の選考にあたっては、応募要項に記載した選考にあたって重視する点に加えて、次のことを踏まえました。

- ①「被災した人びとを支援するボランティアやNPO等と被災地の人びとが協力しあい、さまざまな活動とともに取り組み、人びとのつながりをはぐくみ、被災地域コミュニティの再興に向けた市民の力を高める」事業という視点を大切にします。
- ②応募要項の選考にあたって重視する点の考え方を基準にしながらも、個別事例において事業全体の中で助成が必要かどうかを柔軟に判断していく。
- ③対象団体の「第三者から活動の実態が裏付けられること」という要件については、現地での協力団体に確認するほか、活動報告のホームページ等で確認する。
- ④応募要項に具体的に書いていないことについて審査する場合は、応募要項(P4)の「選考にあたって重視する点」をはじめ、配分委員会の合議により判断する。
- ⑤災害救助法や雇用促進に関する法律、他の助成金等、他の事業や制度で対応できるものがある場合はふさわしい制度を案内することも検討する。
- ⑥被災した人びとを支える活動を多数、また長期に支えるという目的のため、応募団体に対し「助成対象外」として関わりを断つのではなく「次回の再応募」について提案することを十分行っていく。

今回の選考で保留や助成を見送った応募案件については、応募団体の活動そのものを否定しているものではありません。事業の計画性や具体性を磨き、さらには、地元団体との連携を緊密にしたうえで再度の応募を期待しています。

## (2) 助成上限額の取り扱いについて

応募要項では「各プログラムにおける1団体あたりの助成額の上限は、原則として300万円とする」と示していますが、今回の選考では、この助成上限額の取り扱いについても協議しました。

この結果、次のような事例について、配分委員会で精査したうえで案件ごとに協議することとしました。この際は、助成総額に限りがあることを踏まえ慎重な対応を行っていきます。

今後の応募については、審査事務局の中央共同募金会のサポート募金担当への事前相談を必須とすることとします。

- ①同じ時期に別の地域に拠点を設けて事業を行う場合
- ②同じ時期に同じ拠点で全く異なる事業を行う場合
- ③1つの事業を終えた後、また別の事業を行う場合

## 3. これからの選考に向けて

6月10日（金）締め切りとなっている第2回目の助成決定は、来る7月初旬に選考を予定しており、基本的に今回（第1回）の選考の際の考え方を踏まえて行います。

ただし、6月20日（月）から始まる第3回目の応募受付分から、若干の応募要項・応募書の加筆修正を検討し、6月初旬には改訂した応募要項を公表する予定です。

終わりに、このサポート募金の特色は、5名以上のグループの活動から応募が可能なことです。次の社会を担う若い世代の皆さんをはじめ、多くの皆さまからの応募を期待しております。

さらに、2つ目の特色は、寄付額が助成額に連動する「循環型」の「支える人を支える」仕組みです。今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、有意義な活動を展開されるよう望みます。

そして、「他の仲間たちを支える」ためにも、サポート募金への寄付および広報周知について、ぜひとも積極的な協力をお願いいたします。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」  
配分委員会 委員長 山崎美貴子